

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	電気機器Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0077			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気情報工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	プリント配布						
担当教員	平地 克也						
到達目標							
1. 誘導機の原理と構造を説明できる。 2. 同期機の原理と構造を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	誘導機の原理と構造の詳細を説明できる			誘導機の原理と構造の概要を説明できる		誘導機の原理と構造を説明できない	
評価項目2	同期機の原理と構造の詳細を説明できる			同期機の原理と構造の概要を説明できる		同期機の原理と構造を説明できない	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
(B)							
教育方法等							
概要	直流モータおよび交流モータ・発電機や、変圧器の基礎を解説し、続いてそれらの電子工学（エレクトロニクス）による制御を習得させる。さらに、電気エネルギーをより広範な生産活動へ応用するための各種電気エネルギー変換機器とその利用を理解させる。これらにより、電気機器とその制御に関する基礎知識と、それらの高度産業技術への展開能力を獲得させる。						
授業の進め方・方法	プリントに沿った解説と板書を中心として講義を進める。最近のトピックスなどを配布資料やスライドで紹介し、実用技術との対応を述べる。重要事項は全て板書するので、必ずノートを取り、理解すること。						
注意点	電気機器は重厚長大産業の担い手と思われがちですが、今日ではそれに留まらず、家電製品、OA機器、コンピュータ、自動車等に広く用いられるようになりました。これは電気機器がエレクトロニクスの技術で高度に制御されることにより大きな進化を遂げたからです。今なお新しい制御方式が次々と生み出されています。この講義によって、電気機器の基本原理を知り、電気エネルギーの発生や他のエネルギー形態への変換過程を理解することで、現代社会を支えている電気機器の重要性を認識して下さい。さらに、この分野の先端の研究開発状況にふれることで電気機器への関心を深めて下さい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明、誘導モータと同期モータの原理		誘導モータと同期モータの原理を説明できる。		
		2週	三相交流		三相交流の原理を説明できる。		
		3週	回転磁界とその発生原理		回転磁界とその発生原理を説明できる。		
		4週	誘導モータの構造		誘導モータの構造を説明できる。		
		5週	誘導モータの等価回路		誘導モータの等価回路を説明できる。		
		6週	誘導モータの主要特性		誘導モータの主要特性を説明できる。		
		7週	同期機の原理		同期機の原理を説明できる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	同期機の等価回路とベクトル図		同期機の等価回路とベクトル図を説明できる。		
		10週	同期発電機の主要特性		同期発電機の主要特性を説明できる。		
		11週	同期モータの主要特性		同期モータの主要特性を説明できる。		
		12週	インバータの原理と特性		インバータの原理と特性を説明できる。		
		13週	インバータによる交流モータ制御		インバータによる交流モータ制御を説明できる。		
		14週	電気機器とパワーエレクトロニクスの産業応用		電気機器とパワーエレクトロニクスの産業応用を説明できる。		
		15週	期末試験				
		16週	テスト返却と復習				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	電気・電子系分野	電力	誘導機の原理と構造を説明できる。		3	
				同期機の原理と構造を説明できる。		3	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0